

国際協力事業団

ラオス国 農林省

ラオス国メコン河沿岸貧困地域

小規模農村環境改善計画調査

ファイナルレポート

平成12年7月

株式会社 三祐コンサルタンツ

日本工営株式会社

序 文

日本国政府は、ラオス人民共和国政府の要請に基づき、同国のメコン河沿岸貧困地域小規模農村環境改善計画にかかるマスタープラン調査を行うことを決定し、国際協力事業団がこの調査を実施いたしました。

当事業団は、平成10年11月から平成12年1月までの間、3回にわたり、株式会社三祐コンサルタンツの宮西敬朋氏を団長とする調査団を現地に派遣しました。

調査団は、ラオス人民協和国政府関係者と協議を行うとともに、計画対象地域における現地調査を実施し、帰国後の国内作業を経て、ここに本報告書完成の運びとなりました。

この報告書が、本計画の推進に寄与するとともに、両国の友好・親善の一層の発展に役立つことを願うものです。

終わりに、調査にご協力とご支援をいただいた関係各位に対し、心より感謝申し上げます。

平成12年7月
国際協力事業団
総裁 藤田公郎

伝 達 状

国際協力事業団
総裁 藤田 公郎 殿

今般、ラオス人民共和国におけるメコン河沿岸貧困地域小規模農村環境改善計画調査が終了致しましたので、ここに最終報告書を提出できることを喜びといたすものであります。

本報告書には、日本国政府関係省庁並びに貴事業団の上記計画策定に関する助言や提言、さらにはラオス人民共和国でもたれた同国政府関係省庁委員会との会議でのコメントを反映して、調査地域において農民参加による農業・農村開発計画を取りまとめております。

調査・検討の結果、農業・農村開発の一手段であるポンプ灌漑施設整備はラオス国が独自予算で実施中ですが、これらの利用技術を高めるために必要な農民の組織化、農民金融サービスの改善、投入資材や農産物の流通システムの整備等において多くの課題が残されていることが判明いたしました。他方、ラオス国における限られた人的資源並びに財政資金の有効活用の観点から、選定されたモデル地域を拠点・集中的に開発し、そこで得られる知見・経験を他地域に敷衍・展開する新しい開発手法を提案いたしました。このようなラオス国にとっては新しい開発手法を実行に移すためには、受益農民の事業の計画・実施への参加はもとより、関係諸機関における人的能力開発が不可欠であります。今後、ラオス国内外の利用可能なリソースを適切に活用することにより、調査対象地域における持続的農業・農村開発の達成を通じて地域の発展に大きく寄与するものと確信するものであります。

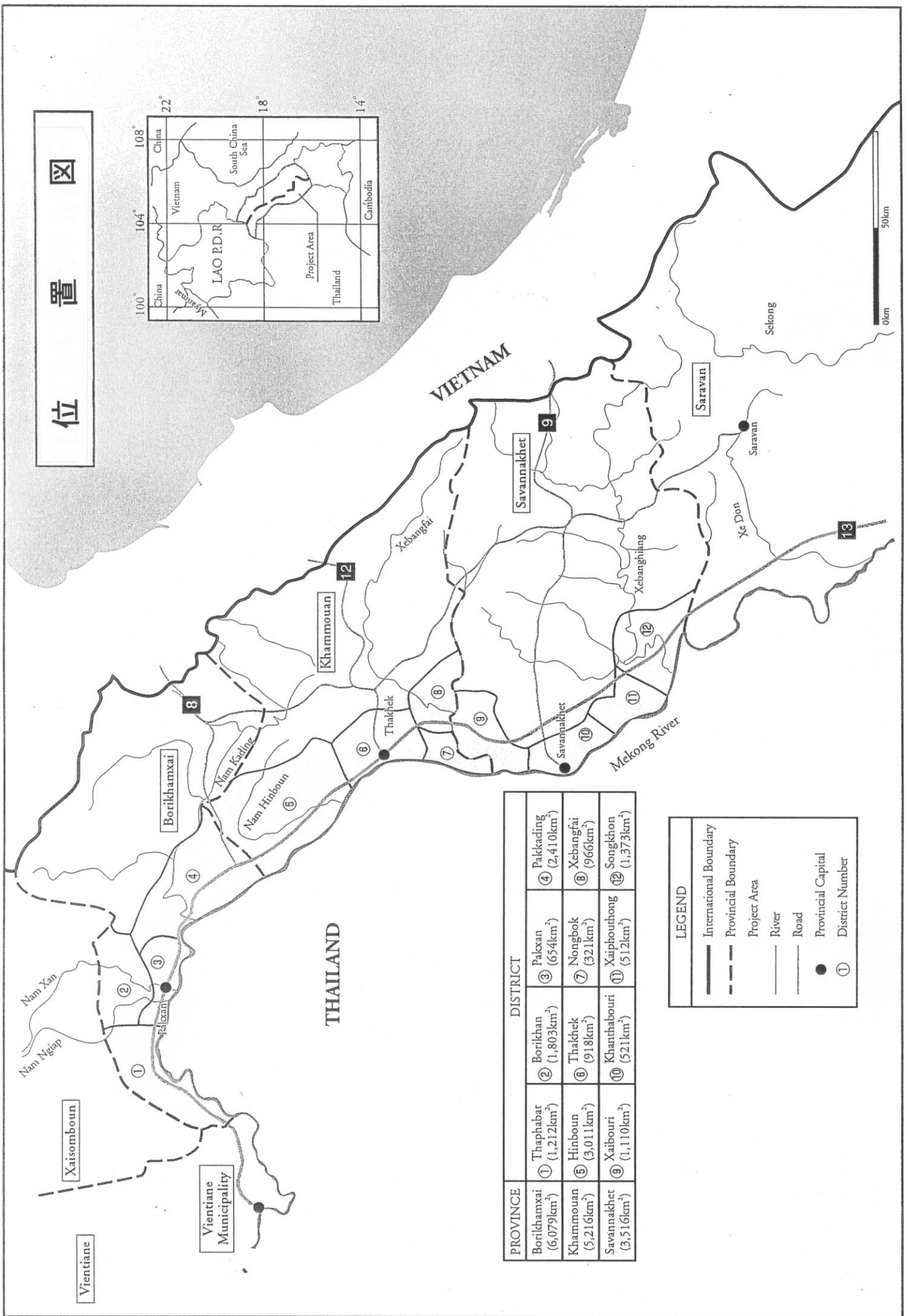
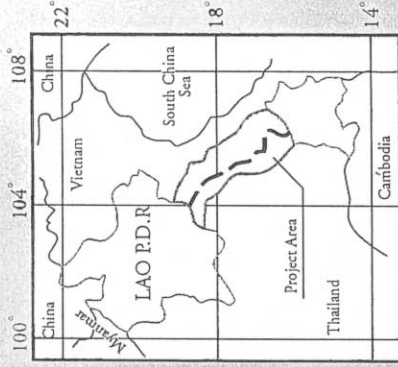
最後に、本調査の実施に際し、積極的なご支援とご協力を賜った貴事業団、外務省、農林水産省、ラオス人民共和国農林省を含めた関係省庁をはじめとして、随時適切なお指導・助言を頂いた作業監理委員会の関係各位に対して深甚の謝意を表します。

平成 12 年 7 月

宮西敬朋

調査団長
宮西 敬朋

位置图



PROVINCE	DISTRICT			
Borikhamxai (6,079km ²)	Thaphabat ① (1,212km ²)	Borikhan ② (1,803km ²)	Pakxan ③ (654km ²)	Pakkeading ④ (2,410km ²)
Khammouan (5,216km ²)	Hinboun ⑤ (3,011km ²)	Thakhek ⑥ (918km ²)	Nongbok ⑦ (321km ²)	Xebangfai ⑧ (966km ²)
Savannakhet (3,516km ²)	Xaibouri ⑨ (1,110km ²)	Khanthabouri ⑩ (521km ²)	Xaiphouthong ⑪ (512km ²)	Songkhon ⑫ (1,373km ²)

LEGEND	
	International Boundary
	Provincial Boundary
	Project Area
	River
	Road
	Provincial Capital
	District Number